

学ぶ意欲を高めるための方策や手立てを考える上では、学ぶ意欲の状況を把握していることが必要です。状況を的確に把握することで、授業の改善や個に応じた指導が可能になります。

学ぶ意欲を測定する代表的な方法には、「観察法」「面接法」「質問紙法」があります。授業や単元の展開に応じて、選択したり、組み合わせたりして効果的に用いることが大切です。

また、子どもがどのように感じているかを、授業評価や面接などから把握し、指導の内容や方法について検証することも必要です。

◆ 学ぶ意欲の3つの測定法

○ 観察法

日々の授業で行われている最も基本的な方法です。自分だけではなく、同僚による観察も重要です。

「自分の力で問題を解こうとしているか」「課題を解決したら、難しい問題に取り組んでいるか」「新しい情報に興味を示しているか」などの観点を意識して観察することが大切です。

○ 面接法

教師が必要と思う内容を詳しく調べることができ、家庭における意欲なども含めて、子どもを多面的にとらえることができます。正しい情報を得るためには、信頼関係を築いていることが必要条件となります。

○ 質問紙法

子ども自らが認識している学ぶ意欲の程度を質問紙を用いて調べるもので、短時間に多くの子どものデータが得られます。個人や学級全体などの数値から、傾向を把握して指導にあたることができます。また、複数回実施することで、変容を把握できるため、教師の働きかけの効果の検証にも活用できます。

質問項目（例）

レベル	要素	質問項目
安心して 学べる環境		授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。
		先生は学習のことについてほめてくれる。
		学校では、落ち着いて学習している。
		クラスは発言しやすい雰囲気である。
欲求・ 動機	知的な好奇心	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
		疑問やふしぎに思うことは、わかるまで調べたい。
	有能さへの 欲求	自分もっている能力をじゅうぶんに発揮したい。
		もっとかしこくなりたい。
	向社会的 欲求	社会のために役立つような人になりたい。
		思いやりのある人になりたい。
学 習 行 動	情報収集	興味のあることは調べずにはいられない。
		わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。
	自発学習	テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。
		自分から勉強に取り組んでいる。
	挑戦行動	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。
		むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
	深い思考	もっとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。
		授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。
	独立達成	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。
		むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。
	協同学習	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。
		授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。
認知・ 感情	おもしろさ 楽しさ	いろいろなことを学ぶことは楽しい。
		失敗しても学ぶことはおもしろい。
	有能感	勉強面では友だちからたよられていると思う。
		自分は勉強がよくできるほうだと思う。
	充実感	毎日、明るく元気に生活している。
		毎日の生活が充実していると感じている。

*この質問項目は、筑波大学大学院の櫻井茂男教授の研究によって得られた尺度により設定したものです。